ケータイ安全教室： 携帯電話と 正しくつきあうために

(株)NTTドコモ 菅野幸子
Sachiko Sugano

まえがき

近年、携帯電話は生活の様々な場面で使われるようになりました。通話やメールの機能がメインだった携帯電話ですが、今ではインターネットに接続できることはもちろん、写真を撮ったり、音楽やゲームをダウンロードしたり、その他にも携帯電話（電子マネー）で買い物ができるなど、大変高機能化しています。

このように、とても便利で身近になった携帯電話ですが、ルールやマナーを守らずに誤った使い方をすると、犯罪やトラブルに巻き込まれてしまう危険性があります。

迷惑メールが来たら…

携帯電話に使い慣れた頃の中学生や高校生が、犯罪やトラブルに巻き込まれてしまうケースが増えています。その犯罪の入口となっているのが「迷惑メール」です。まずはメールがきっかけで起こるトラブル「迷惑メール」について御紹介致します。

受け取る側の同意なしで、一方的に送られてくるのが迷惑メールです。迷惑メールは様々なタイプがありますが、これらの手口は近年、悪質かつ巧妙化しています。

信頼できる会社を装って、本物そっくりにした偽サイトに誘導し、大切な個人情報を入力させて盗み取る「フィッシング詐欺」、本文中に記載されている URL をクリックしただけで登録料を請求されてしまう「ワンクリック詐欺」や、気付かないうちに出会い系サイトへつながる「出会い系サイト誘引メール」など、迷惑メールの種類は様々です。

このようなメールを受け取り、興味本位でサイトにつないでしまったことを保護者や周囲の大人に言いづらいため、隠そうとして子どもたちが大きな被害に遭うことも少なくありません。

図1 出会い系サイトでの主な被害者は中学生・高校生です

迷惑メールが届いたら、「身に覚えのないメールには返信せずに放っておく」「本文中の URL には不用意にアクセスしない」ことが重要です。

そしてすぐに家族に報告・相談するという家庭でのルールを決めることもとても大切です。

最近では迷惑メールなどに URL が記載されている出会い系サイトなどを通じて他人と出会い、児童買春や誘拐、監禁などの犯罪やトラブルに巻き込まれるケースだけでなく、「非出会い系サイト」と呼ばれる一般サイト（ブログ・SNS・ゲームサイト・掲示板など）から、犯罪やトラブルに巻き込まれるケースが増えています。

ゲームサイトや SNS (Social Networking Service) などは、年齢を問わずたくさんの人々が参加しており、参加者同士がコミュニケーション機能を使って気軽に交流を図ることができます。様々なコンテンツが楽しめ、遠く離れた人とも共通の趣味の話ができたりと、インターネットならではの魅力がある反面、中にはこれらのサイトを出会いや犯罪目的で利用する人が存在します。そしてサイト上でやり取りするうちに相手から会うことを求められ、実際に会ってしまうことで、犯罪やトラブルに巻き込まれてしまうのです。

「出会い系サイト」「非出会い系サイト」を問わず、サイトを通じた出会いから凶悪な犯罪に巻き込まれる可能性があるため、「絶対に会ってはいけない」と子どもたちへの注意を徹底する必要があります。

トラブルを防ぐために…

インターネットへの書き込みをきっかけとしたトラブルも増えています。

例えば、個人情報の書き込みや肖像権侵害のトラブルがあ

図2 出会い系サイト以外の一般サイトでも被害が増えています

ります。プロフィールやSNSなどに、氏名や学校名などを書き込んだり、顔写真を掲載したり、また自分の行動や現在地をリアルタイムで書き込んでしまうことで個人を特定され、学校の前で待ち伏せされたり、ストーカー被害に遭ってしまう可能性があります。子どもたちには、個人情報の書込みや居場所を特定される書込みをしないように注意する必要があります。そして、自分の情報だけでなく友達の個人情報を書き込んでしまったり、無断で友達の写真を載せてしまう人もいます。これは個人情報漏えい、肖像権侵害となる場合もあります。

その他には、他人を傷付けるような誹謗中傷、犯行予告などいたずら書込みなども問題になっています。

軽い気持ちで書いた一言が人を傷付けてしまったり、ふとした一言の書込みがきっかけで、現実のいじめに発展してしまうケースもあります。インターネットは相手の顔が見えない、また、匿名でも書込みができることから、内容がどんどんエスカレートすることもあります。不用意な書込みで人を傷付けていないか、自分が言われたらどう思うか、書き込む前によく考えなければいけません。

また「学校を爆破する」「〇〇を殺す」というような犯行予告の書込みは、「威力業務妨害罪」「脅迫罪」などの犯罪になる場合があります。逮捕されることもあります。「いたずらのつもりだったのに…」という言い訳は通用しません。

インターネットのサイトに書込みを行うと、書き込んだ先のコンピュータにその記録が残ります。これを「ログ」といい、通常は公開されていませんが、警察からの要請があれば、書込みを行った個人を特定することができます。メールの場合は、「ヘッダ」にログが記録されますので、どのようなルートを経由して誰が送ったのかが分かります。「インターネットは匿名なので誰が書いたか分からない」という認識は間違いなのです。インターネット上には常に監視の目があり、問題のある書込みが発見されれば「警察に通報されることもある」と、子どもたちに認識させる必要があります。

トラブル防御方法

次に、トラブル防御方法について御紹介致します。

まずは迷惑メール対策です。友達や家族などからの必要なメールだけを受け取れるように設定できるのがメールの受信／拒否設定です。こちらを設定すれば、一方的に送り付けてくる様々な迷惑メールを未然に防ぐことができます。また、有害なサイトへのアクセスを制限するフィルタリングサービスを利用すれば、うっかりアクセスしてしまうリスクや有害サイトを通じて危険な目に遭うリスクなども減らせます。

2009年4月1日に施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」では、18歳未満の児童が携帯電話を使用する場合は、保護者からの不要の申し込みがない限り、原則フィルタリングサービスに加入することが法律で決められています。フィ

図3 個人情報漏えい・肖像権侵害などのトラブル

ルタリングサービスは各社無料で提供しておりますので、子どもが安全に携帯電話を使用できるよう、保護者の責務として是非フィルタリングサービスを御利用下さい。

インターネット上には違法にコピーされたデータがあふれています。2010年1月に著作権法の一部が改正され、著作権を侵害した配信と知りながら、権利者に無断で音楽や映像をダウンロードすることは、個人的に楽しむためであっても違法（権利侵害）であるとされました。「知らない間に法律違反していた」などということのないよう、著作権や肖像権などの社会的なルールについても注意が必要となります。

携帯電話という便利なコミュニケーションツールの登場により、いつでもどこでも連絡を取り合うことができるようになりましたが、その一方で携帯電話の特徴が悪い方に働き、メールは5分以内に返すといった仲間内のルールに縛られてしまうなど、友達関係のあり方が問題になっています。

そして無自覚に携帯電話を使ってしまい、いつの間にか請求金額が高額になっていたり、携帯電話を持ち歩いていると不安、何となく携帯電話を触ってしまうなど、携帯電話に振り回される人たちも増えています。

日常生活に支障をきたさないよう、子どもたちには携帯電話の使用時間を制限したり、料金の上限を決めるなど、正しく携帯電話を使うためにまず家庭内で話し合いルールを決めることが大切です。そして、携帯電話を持つことの責任を自覚させましょう。

NTTドコモでは、2004年より、ご要望を頂いた小学校、中学校、高等学校、地域コミュニティなどの団体に無料で講師を派遣し、上記に要約致しました内容で携帯電話の安心・安全な使い方を啓発する「ケータイ安全教室」を実施しております。「ケータイ安全教室」は、携帯電話を持ち始めの頃の小学校高学年向けの「入門編」、使い慣れた頃の中・高校生向けの「応用編」、そして「保護者・教員編」があります。

更には2009年4月より「シニア編」メニューも追加し、振り込め詐欺などの犯罪に巻き込まれないための対策や、大地震などの災害時に役立つ災害用伝言板などの紹介などもしております。

「ケータイ安全教室」は、2011年3月末までに、全国累計で約20,700回開催し、約316万人の方々に受講して頂いております。「ケータイ安全教室」の詳細、教材など詳しい内容の御確認、お申し込みはNTTドコモホームページを御覧下さい。

<http://www.nttdocomo.co.jp/k-tai-anzen/>